



クイック
ユーザーガイド
第2版



安全にご利用いただくために

概要

スピーカーを安全に使用いただくために次の注意事項を都度確認し遵守いただいたうえでご利用ください。

プロフェッショナルスピーカーは非常に大きな音圧を出力することができるがゆえに注意いただく点がございます。長時間90dB以上の音圧にさらされた場合、聞こえに影響を及ぼす可能性がございます。大音量になっているスピーカーのそばに長時間たないでください。

ポールマウントもしくはスタンドマウント

BlacklineX Poweredフルレンジスピーカー (XP12およびXP15)はポールマウントソケットを有しており、ポールマウントおよびスタンドマウントすることができます。

ポールマウントおよびスタンドマウントをする際は、次の点にご注意ください。

- 使用するスタンドは必ずスピーカーの重量に耐えられるものを使用してください。
- スタンドは平らな場所に設置し、足を完全に開いた状態で設置してください。
- スタンド1台に複数のスピーカーを設置しないでください。
- スピーカーが引っ張られ倒れる危険性をさけるため、接続するケーブルの長さは余裕をもったものをご用意ください。
- 風のある野外で使用する場合は、スタンドに転倒防止の重りをつけてお使いください。
- サブウーファーにポールマウントする場合も同様に、上記の点にご注意の上ご使用ください。

スタッキング

- 設置位置はフロアやステージの高さ程度で安定した足場であることを確認してください。
- 野外で風にあおられ倒れる危険があるような高い場所に設置しないでください。
- スピーカーは大音量を鳴らすと自身の振動により若干動く可能性があります。これをさけるために設置面とスピーカー、スピーカー同士もしくは取り付け面の間は摩擦ができるだけ多い面を選んでください。

リギングおよび吊り設置

警告: リギングおよび吊り設置の際は吊りに対する知見を十分にもった人物のみが実施してください。また、必ず建築家や建築構造に関するエンジニアもしくはそれに準ずる専門家の協力を仰いでください。

BlacklineX Poweredシリーズのエンクロージャーはポータブル用としてだけでなく、アイボルト用のネジ穴を有し、固定設備のフライング用としてもお使いいただけます。また、エンクロージャー内部にはブラケットの荷重を分散するための鉄製金具が必要な部分に搭載されており、吊り物として安全にお使いいただけるようになっています。

- 決してアレイやクラスターのようにスピーカーを数珠繋ぎで吊ることはしないでください。
- スピーカーの吊り設置を行う際は細心の注意を払って行ってください。また、アイボルトはショルダー型のものを使い、スレッドの長さは少なくとも30mmのもののみを使用することを忘れないでください。
- 1本の鉄棒を曲げ加工したようなアイボルトは使用しないでください。アイ部分が重さによって伸び、スピーカー落下の危険があります。
- アイボルトはスレッド方向への荷重に最も強いことが知られています。なるべくスレッド方向以外の荷重がかからないような取り付け方をお勧めします。

接続

電源接続

XPシリーズの電源端子は標準的な3端子IEC電源コネクタを使用しています。電源ケーブルは取り外し可能となっておりますので本体についているレセプタクル電源端子に電源ケーブルをつなぎ、100VAC電源へ接続してください。

- 接続するAC電源は必ずリアパネルに表記されている電圧で使用してください。また、付属電源ケーブルで使用する場合は必ず100VAC電源で使用してください。
- グランドピンは必ずアースに接続してください。

XLRおよび1/4"コンボインプット

XPシリーズは2chのインプット端子を有していますがそのどちらもXLRコネクタを使用したバランス型のマイク信号をうけられます。Theyその配線は次のとおりであり、基本的な仕様はAES (Audio Engineering Society)に準拠します。

XLR バランス配線:

- Pin 1 = シールド (グランド)
- Pin 2 = ポジティブ (+もしくはホット)
- Pin 3 = ネガティブ (- もしくはコールド)

上記に加え、ラインレベルシグナルをうけられるバランス型の1/4"TRS端子もしくはアンバランス型の1/4"TS端子も使用することができます。

また、どちらのインプット端子も、ギターなどのハイインピーダンス (Hi-Z) のシグナルにも対応しています。インピーダンスマッチングのために個別にDIボックスをご用意いただく必要はありません。

これらのインプット端子にバランス型のシグナルを繋ぐためには、1/4" チップ-リング-スリーブ (TRS) プラグも使用できます。"TRS"はTip-Ring-Sleeveの各頭文字をとったものであり、3接点を有するアンバランス型のステレオもしくはバランス型のモノフォーンプラグをさします。TRSプラグをバランス型のシグナルで使用する場合は配線は次のようになります。

1/4" TRS バランスモノ配線:

- スリーブ = シールド
- チップ = ホット (+)
- リング = コールド (-)

アンバランス型のインプットを使用する場合は、1/4"モノ (TS) フォーンプラグを使用してください。配線は次の通りです。

1/4" TS アンバランスモノ配線:

- スリーブ = シールド
- チップ = ホット (+)

ミックスアウト

この端子はオス型のXLRタイプのコネクタで、この端子からはスピーカーがもつch1, ch2, Bluetooth, 計3つのチャンネルのレベルやEQ補正後のミックス信号が出力されます。複数のBlacklineX Poweredスピーカーで同様の信号を共有したい場合にこの端子を使用します。

本端子は3ピンで構成され、それぞれのピンに割り当てられているものは以下の通りです。基本的な仕様はAES (Audio Engineering Society)に準拠します。

バランス XLR アウトプットコネクタ

- Pin 1 - シールド (グランド)
- Pin 2 - ポジティブ (+ もしくはホット)
- Pin 3 - ネガティブ (- もしくはコールド)

リアパネルコントロール

電源スイッチ

アンプの電源をいれるには、スピーカー背面下部にある電源スイッチON側にたおしてください。一般的な電源投入の順序としては、外部ミキサーやそれに準ずるシグナルソースの電源を先に入れ、サブウーファーを次に、最後にフルレンジスピーカーの電源を入れてください。また、システムをシャットダウンする場合は、先にフルレンジスピーカーの電源を落とし、サブウーファーを次に、最後に外部ミキサーの電源をおとしてください。この順序で電源投入/遮断を行うことで、不用意なサージノイズやその他のノイズがスピーカーから再生されることを防ぐことができます。

LCDディスプレイ

モダンで高解像度なフルカラーLCDディスプレイはBlacklineX Poweredスピーカーの最も重要な機能の一部です。リミッター設定は表示できませんが、レベル、EQ、プリセット設定、Bluetoothのペアリング、各種設定とロック機能の使用やその他パラメーターの設定を表示します。

スピーカーコントロールノブ

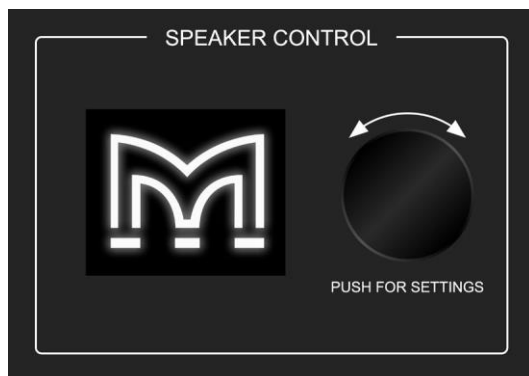
このプッシュボタン型ロータリーエンコーダーは各チャンネルのマスターレベルやメーターアプリケーション特有の設定やEQ設定、Bluetooth設定、セットアップ機能、製品情報を参照および設定する際に使用します。詳しくは以下の章を参照ください。

スピーカーコントロール

BlacklineX PoweredシステムはLCDスクリーンとプッシュボタン機能付きロータリーエンコーダーを使用して各設定を選択します。

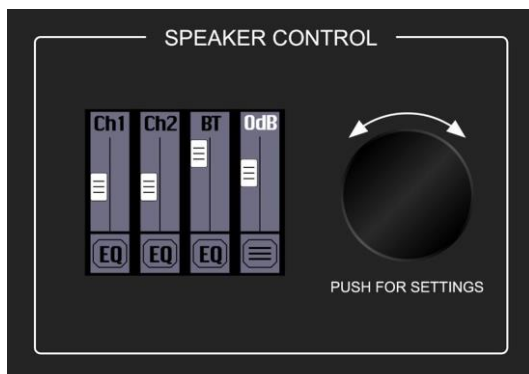
起動

起動中はスクリーンにMartin Audioのロゴが表示されます。

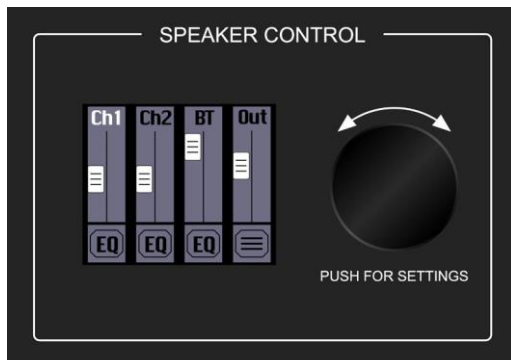


起動後は必ずミキサースクリーンに切り替わります。

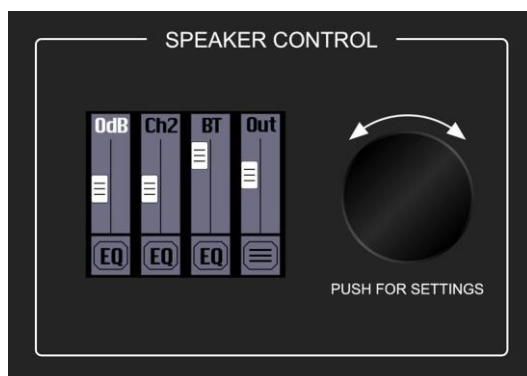
ミキサースクリーン



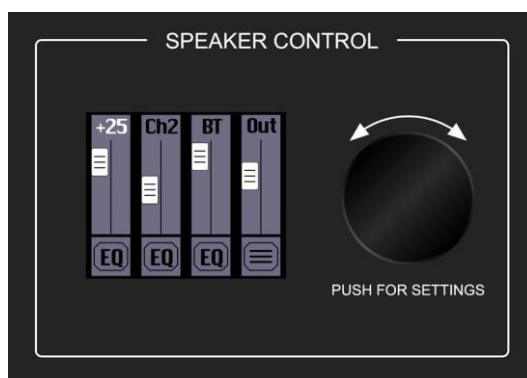
ロータリーエンコーダーを回すことでどのパラメータの設定を変更するか選択します。文字が白くハイライトされたものが現在選択されているパラメータです。ミキサースクリーンは通常アウトプットレベルが選択された状態で呼び出されます。エンコーダーを一回押すとセレクトモードとなり、白くハイライトされた文字が現在のレベル(dB表記)に切り替わります。この状態でエンコーダーを回すとレベル調整を行うことができます。XPシリーズはインプットチャンネルが3つあり、3つ目はBTと表記されBluetoothデバイスから受信した信号のレベルを調整できます。また各チャンネルのEQパラメータや画面右下にあるメニューオプションからデバイスに関する詳細な設定を行うことができます。例として下記図ではCh1のレベルを選択してみます。



エンコーダーを1回押すことでCh1という文字がdB表記で現在のレベルが表示されます。



この状態でエンコーダーを回すことでレベル調整ができ、フェーダーのノブアイコンが操作に応じて上下し、ゲインの増減が直感的に表示されます。



レベルコントロールのレンジは次のような範囲をとります。

- チャンネル1, 2 : -30 dB ~ +40 dB
- Bluetooth: -32 dB ~ 0 dB
- メインアウトプット : -inf (off) ~ +10 dB

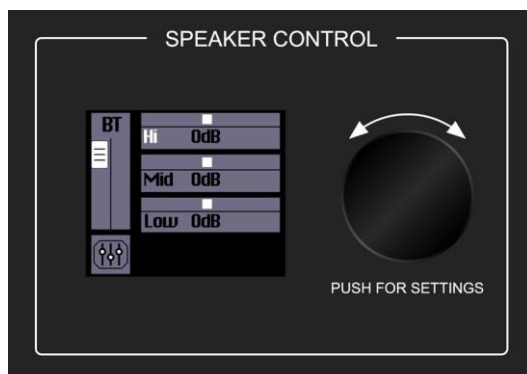
各chは、レベルのパラメータを最小値にした時完全にミュートされ、LCDディスプレイに表示されるフェーダーのノブアイコンは赤色になります。



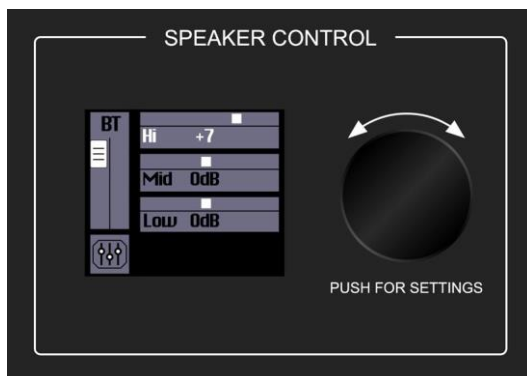
EQ

ミキサースクリーンの画面下部の段を選択することでインプットch1, 2およびBluetoothのEQ設定を調整できます。

各チャンネルのEQパラメータを変更する場合は、エンコーダーを回して変更したいチャンネルのEQアイコンを選択してください。



エンコーダーでどの周波数帯域のパラメータを変更したいか、高域 (Hi), 中域 (Mid) および低域 (Low) のうち選択します。エンコーダーを押すことで選択され、選択した帯域のdB表記が白くハイライトされエンコーダーを回すことでレベルを調整できます。当画面を抜きたい場合は左下のミキサーアイコンを選択し、ミキサースクリーンに戻ってください。



EQのレンジと調整できるレベル範囲は次の通りです。

- High: ± 12 dB @ 6 kHz [Ch1および2] @ 12 kHz [Bluetooth]
- Mid: ± 12 dB @ 2.5 kHz
- Low: ± 12 dB @ 80 Hz
- HPF (ハイパスフィルター): 10 Hz – 400 Hz 12 dB/octave [Ch1, 2のみ]

メニュースクリーン

ミキサースクリーンの、アウトプットフェーダーの下にあるメニューアイコンを選択すると、メニュースクリーンに入ることができます。メニュースクリーンには下記に示す5つの設定項目があります。

- プリセット
- Bluetooth
- 設定
- 操作ロック
- チャンネル設定

プリセット



ここではスピーカーの使用用途に応じた最適なプリセットを呼び出すことができます。

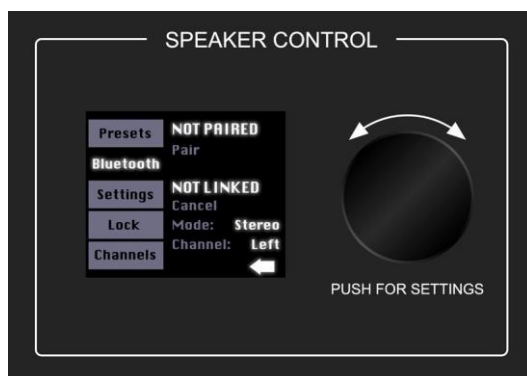
白くハイライトされているものが現在選択されているプリセットです。プリセットを変更する場合は、エンコーダーを回して変更したいプリセットをハイライトさせてエンコーダーを一回押すことでプリセットを選択します。下図では例として'WITH SUB'へプリセットを変更した時の画面となります。

1. **FULL RANGE** – このモードはサブウーファーなしのトップボックス単独使用向けに最適化された設定です。
2. **WITH SUB** – このモードはXP118サブウーファーを併用して使用する場合に使用してください。ハイパスフィルターを適用した設定となっています。
3. **MONITOR** – このモードはフロアモニタースピーカーとして使用する場合に使用してください。低域をロールオフさせ、フロアモニターに最適な設定となっています。

画面右下の矢印を選択することでメニュースクリーンに戻ることができます。



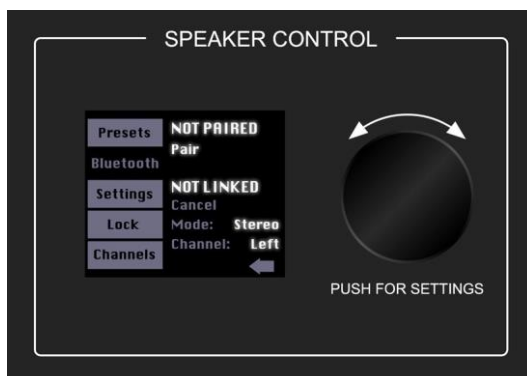
Bluetooth



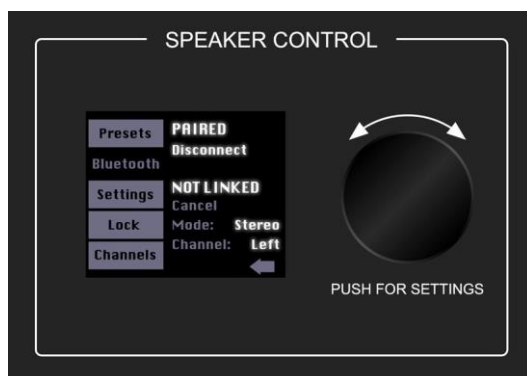
ここでは、Bluetoothの接続設定を変更できます。

ペアリング

デフォルトではスピーカーはBluetoothデバイスとペアリングされていません。エンコーダーを回して ハイライトを**Pair**に合わせてエンコーダーを一回押します。



すると**NOT PAIRED** という表記だった部分は**DISCOVERABLE** へと変わり、**Pair** という表記は**Cancel** へと表記が変わります。ペアリングを中止する場合はもう一度エンコーダーを押してCancelを選択して下さい。この状態の間にお手持ちのBluetoothデバイスから、BLXP12,BLXP15もしくはXP118というデバイスがペアリング先として見つかっているか確認してください。ペアリング先を選択し、お手持ちのBluetoothデバイスとXPシリーズをペアリングしてください。ペアリングに際し必要なコードやパスワードはありません。



ペアリングが成功すると**DISCOVERABLE** という表記は**PAIRED** という表記に変わり、**Cancel** は**Disconnect** という表記に変わります。ペアリングを解除したい場合はDisconnectを選択してください。

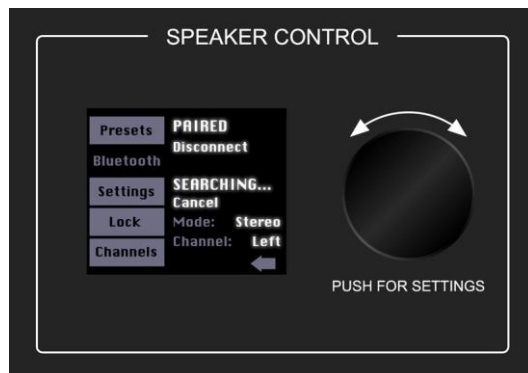
画面右下の矢印を選択することでメニュー画面に戻ることができます。

リンク機能

XPシリーズスピーカーは2台をリンクすることができます。リンクを行うことによって、一つのBluetoothデバイスで同時に2つスピーカーから音声を再生することができるようになります。再生する音声はステレオ(2つのスピーカーのうち1台がLch, もう一台がRch)か"zoned"(モノラル)のうちどちらかを選択できます。

リンクの設定方法は次のように行います。

1. **NOT LINKED** という表記の下にある**Connect** を選択して下さい。
2. **NOT LINKED** は**SEARCHING...** へ、**Connect** は**Cancel**という表記へ変わります。

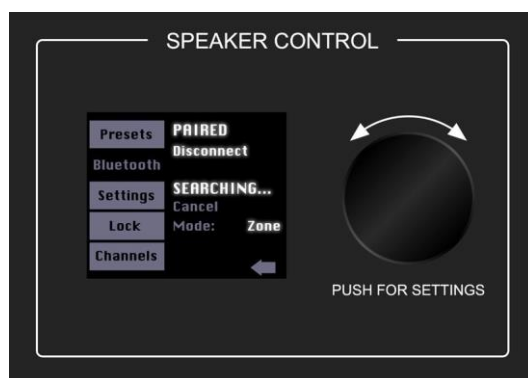


3. この状態で、リンクを行いたいもう一台のスピーカーも同様の操作を行います。
4. **SEARCHING...** は**PRIMARY** もしくは **SECONDARY** という表記に変わり、一つのスピーカーが親機(**PRIMARY**)となりもう一台のスピーカーが子機(**SECONDARY**)となってリンクされます。また **Cancel** は**Disconnect**という表記に変わります。リンクを解除する場合は**Disconnect**を選択します。

スピーカーをリンクした場合、ステレオかゾーン(モノラル)いずれかの再生モードを選択することができます。

再生モードを変更する場合は**Mode**設定からエンコーダーを回して**Stereo**もしくは**Zone**を選択し、エンコーダーを押して確定します。

Stereo設定の場合は**Mode**の下に**Channel**があらわれて、LchおよびRchのうちどちらかを再生するか設定できます。また、アウトプットレベルおよびCh3 (Bluetoothチャンネル)のレベルがリンクされます。一方で**Zone**設定の場合はレベルのリンクは行われず、それぞれのスピーカーのレベルを個別に調整することができます。それにより、それぞれのスピーカーのカバーエリアが完全に異なっている場合に各エリアの音量を個別に調整することができます。



画面右下の矢印を選択することでメニュースクリーンに戻ることができます。

設定

ここでは種々の設定を変更することができます。

スクリーンセーバー

30秒無操作時のLCD スクリーンの挙動を設定できます。挙動は次の3種類から選択できます。

- High - LCDスクリーンの明るさをそのままの状態に保ちます。
- Low - LCDスクリーンの明るさを下げます。
- Off - LCDスクリーンを消灯し、何も表示させません。エンコーダーを回したり押したりすることでスクリーンの表示はすぐさま復帰します。

ホームスクリーン

30秒無操作時から復帰後に、ミキサースクリーンかメニュースクリーンどちらの画面をデフォルトで表示させるかを設定できます。出荷時はミキサースクリーンを表示する設定となります。

オート接続

最近にペアリングしたBluetoothデバイスがペアリングできる状態になっている場合に自動的にペアリングを行うかどうかを設定できます。

ONの場合は自動的にペアリングを行い、**OFF**の場合は自動的にペアリングが行われず、手動による接続が必要となります。

オートリンクBluetooth

最近にリンクしたスピーカーがリンクできる状態になっている場合に、自動的にリンクを行います。

自動的にリンクを行いたい場合は、PRIMARYとしてリンクしたいスピーカーを**PRI**に、SECONDARYとしてリンクしたいスピーカーを**SEC**に設定します。OFFの場合は自動的にリンクが行われず、手動によるリンクが必要となります。

About

ここではDSPやBluetoothのファームウェアバージョンおよびデバイスの固有IDを確認できます。

リストア

リストアを行うことで全てのパラメータをデフォルトに戻すことができます。一度リストアを行うとリストア前の状態に戻すことはできず、以前の設定情報は消去されるため、リストアを選択した時には再度確認画面が表示されることで意図せずリストアを行ってしまうことを防止しています。

画面右下の矢印を選択することでメニュースクリーンに戻ることができます。

操作ロック

ここでは4桁の数字のパスワードを設定し、リアパネルの操作のロックやアンロックを行うことができます。まずエンコーダーを一回押し、パスワード設定のモードに入ります。ここからエンコーダーを回して任意の数字を選び、エンコーダーを押すことで1桁ずつ設定を行います。

設定した数字を修正したい場合は画面下の**Del**を選択することで1桁戻すことができます。4桁全て設定し終わると画面下の**LOCK**ボタンがハイライトされ、エンコーダーを押すことでロック設定が完了します。



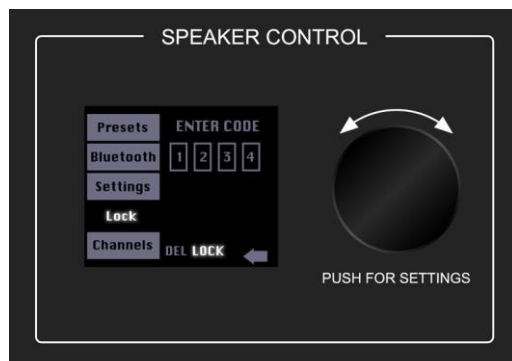
ロック設定後はエンコーダーの操作が利かなくなります。再度操作を行いたい場合は、エンコーダーを押すことで設定したパスワードを要求されますので、パスワードを入力し画面下の**UNLOCK**を選択することでロックが解除されます。

非常時ロック解除

万が一設定したパスワードを忘れてしまった場合は弊社までお問い合わせ願います。

チャンネルメニュー

メニュースクリーンの最後の項目です。選択することでミキサースクリーンに戻ることができます。



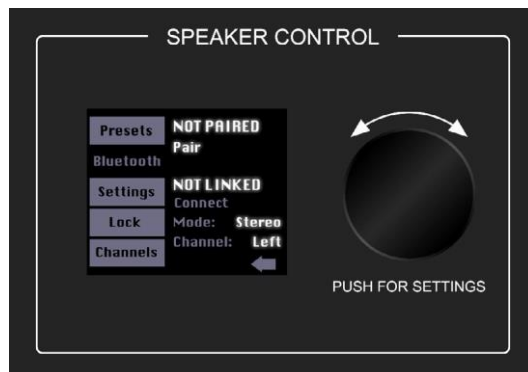
XP Connect - IOSコントロールアプリ

BlacklineX パワードラウドスピーカーはApp Storeにて公開されているIOSアプリケーション” XP Connect” を使用することでIOS端末から各種パラメータをコントロールすることができます。

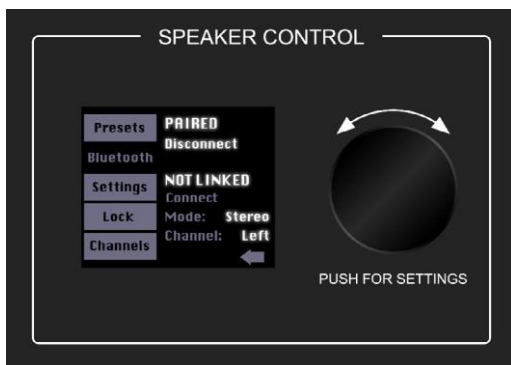
XP Connectではスピーカーの**Mono, Stereo** もしくは **Zone** モードをコントロールできます。-ただし、1つの端末でコントロールすることができるラウドスピーカーは2つまでとなります。

1台の BlacklineXパワードスピーカーの接続

BlacklineXパワードのリアパネルにあるコントロールエンコーダーで**BluetoothのPair**を選択します。



するとNOT PAIRED という表記だった部分はDISCOVERABLE へと変わり、Pair という表記はCancel へと表記が変わります。ペアリングを中止する場合はもう一度エンコーダーを押してCancelを選択して下さい。この状態の間にお手持ちのBluetoothデバイスから、BLXP12,BLXP15もしくはXP118というデバイスがペアリング先として見つかっているか確認してください。ペアリング先を選択し、お手持ちのBluetoothデバイスとXPシリーズをペアリングしてください。ペアリングに際し必要なコードやパスワードはありません。

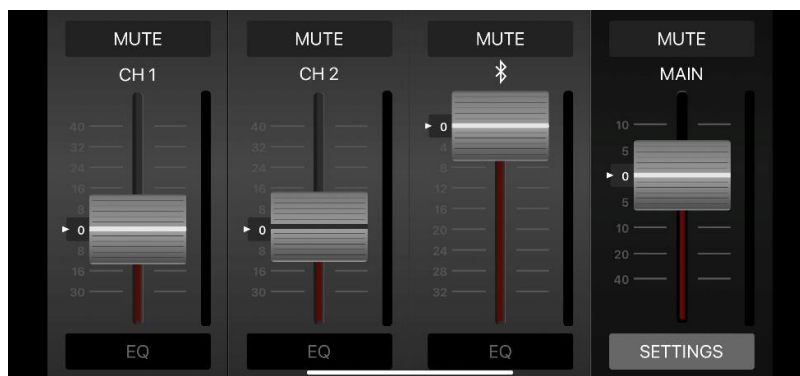


ペアリングが成功するとDISCOVERABLE という表記はPAIRED という表記に変わり、Cancel はDisconnectという表記に変わります。ペアリングを解除したい場合はDisconnectを選択してください。画面右下の矢印を選択することでメニュースクリーンに戻ることができます。

上記手順のあとXP Connectアプリケーションを起動すると自動的に機器を検出し、BlacklineXパワードスピーカーと接続が確立します。



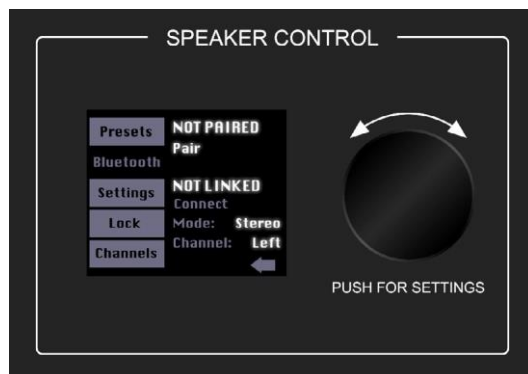
接続が確立すると下記図のような画面が表示されます。この状態ではモノ(スピーカー 1 本分)のパラメーターをコントロールできる状態です。



ペア(2台)のBlacklineXパワードスピーカーの接続

ペアの BlacklineXパワードを接続したとき、片方のスピーカーはプライマリーデバイス(親機)に、もう片方のスピーカーはセカンダリーデバイス(子機)として認識されます。これはそれぞれのスピーカーのどちらを先に認識したかに関係します。一番最初にアプリケーションと接続されたデバイスは **PRIMARY** デバイスとして認識されます。

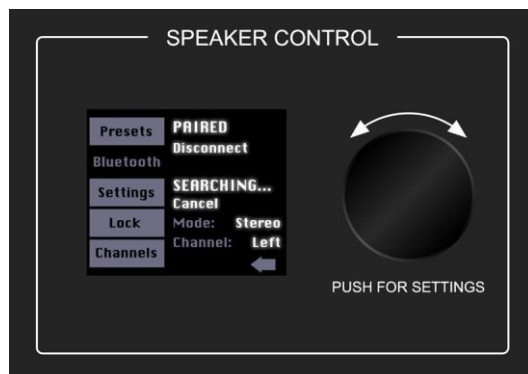
BlacklineXパワードのリアパネルにあるコントロールエンコーダーでBluetoothのPairを選択します。



するとNOT PAIRED という表記だった部分はDISCOVERABLE へと変わり、Pair という表記はCancel へと表記が変わります。ペアリングを中止する場合はもう一度エンコーダーを押してCancelを選択して下さい。この状態の間にお手持ちのBluetoothデバイスから、BLXP12,BLXP15もしくはXP118というデバイスがペアリング先として見つかっているか確認してください。ペアリング先を選択し、お手持ちのBluetoothデバイスとXPシリーズをペアリングしてください。ペアリングに際し必要なコードやパスワードはありません。

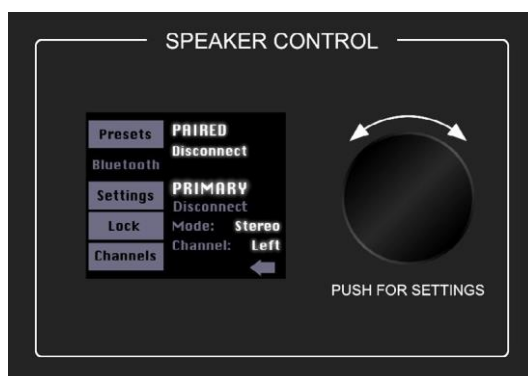
2つのスピーカーデバイスのリンク

1. **NOT LINKED** という表記の下にある **Connect** を選択して下さい。
2. **NOT LINKED** は **SEARCHING...** へ、 **Connect** は **Cancel** という表記へ変わります。

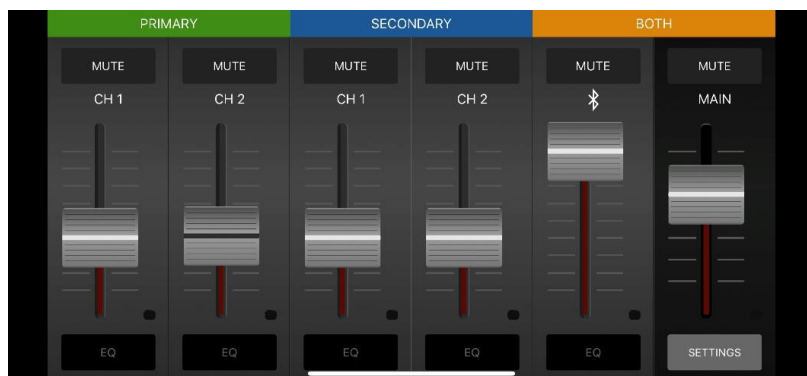


3. この状態で、リンクを行いたいもう一台のスピーカーも同様の操作を行います。
4. **SEARCHING...** は **PRIMARY** もしくは **SECONDARY** という表記に変わり、一つのスピーカーが親機 (**PRIMARY**) となりもう一台のスピーカーが子機 (**SECONDARY**) となってリンクされます。また **Cancel** は **Disconnect** という表記に変わります。リンクを解除する場合は **Disconnect** を選択します。

接続した機器が **PRIMARY** 機器なのか **SECONDARY** 機器なのかは **Bluetooth** ページの LCD スクリーンに表示されます。この定義はアプリケーション上に表示されるため、**Zone** モードで各フェーダーを個別に操作する際はどちらがどちらに対応しているのかを事前に確認しておく必要があります。



XP Connect アプリを起動すると自動的に BlacklineX パワードスピーカーが接続されます。すると下図のように、プライマリースピーカーとセカンダリースピーカーをコントロールできる画面が表示されます。



常設設置されたLRスピーカーのような毎回同じペアでXP Connectアプリケーション接続する場合は**Auto-link**機能を使用することをお勧めします。この機能をONにしておくことで次回スピーカー起動時に自動的にLRスピーカーのリンク作業が行われるようになります。当機能は**Settings > Bluetooth**タブから選択できます。
XP Connectアプリケーションの機能詳細は本マニュアルの最後にある付録をご参照ください。

保護回路機能

リミッター

BlacklineX Poweredは内臓されているDSPでドライバーユニット保護のためのリミッターを設定しております。

各ドライバーユニットは内臓DSPを用いて最適化された熱的(RMS)リミッターおよび機械的(Peak)リミッターが設定されています。しかし過剰な入力によるものまではリミッターによって保護することはできません。もし歪みを感じたらドライバーへのダメージを防止するため入力レベルを下げてください。

熱保護回路

BlacklineX PoweredシリーズはクラスDのアンプを使用しています。とはいえどんなアンプでも熱を発生するものです。例えば直射日光のあたる場所で使用する場合や熱を持つステージライトの元で使用する場合など、アンプが過酷な熱環境に置かれた場合でも安心してお使いいただけるように内臓DSPにて熱保護回路を有し、異常な熱環境から保護します。アンプが安全に使用できる温度まで下がった場合に再起動がされ通常使用できる状態に戻ります。

AC電源

AC電源の使用にあたり

使用する際は必ず100V AC電源にてご使用ください。それよりも低い電圧で使用した場合、アンプが起動しないか起動しても動作が不安定かつ十分な出力が得られません。また、100Vよりも高い電圧で使用した場合、本製品付属のケーブルが高電圧に耐えられず最悪の場合出火の原因となります。また、付属電源ケーブルのグラウンドピンを取りはずすことやBlacklineX Poweredの部品を改造することは決してしないでください。

メンテナンス

メンテナンスガイドライン

BlacklineX Poweredスピーカーは下記のガイドラインを参照いただき、末永くご愛用ください。

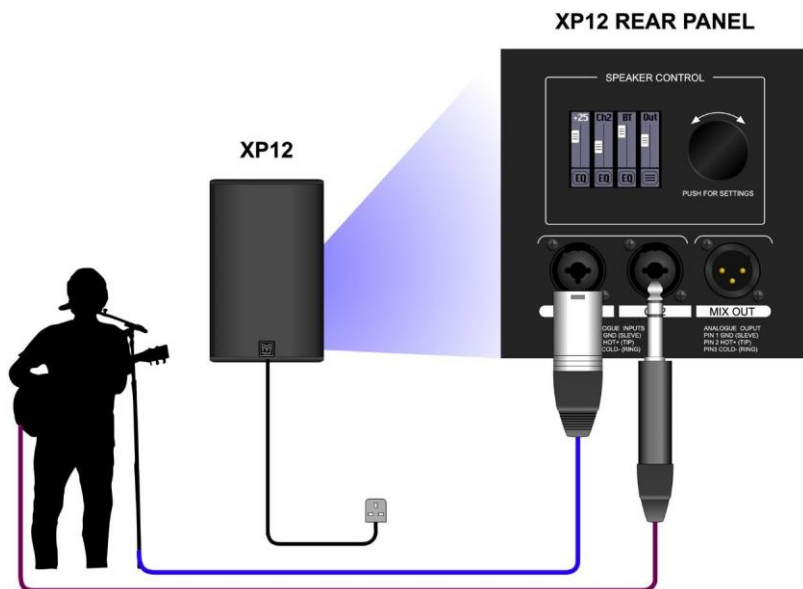
- 湿気の多い場所をなるべく避けてください。野外に設置する場合、雨を凌げる場所に設置してください。
- 氷点下での設置、使用は避けて下さい。やむなくそういった環境で使用せざるを得ない場合は、小さいレベルで15分ほど駆動してボイスコイルを温めてから使用してください。
- キャビネットを拭くときは乾いた布を使用し、拭くときは必ず電源を切って状態にしてください。またその際は湿気の侵入を避けるためグリルを開けてドライバーを向きだしの状態にしないでください。

システムダイアグラム

スピーカーシステムの例

BlacklineX Poweredは様々な方法で使用することができます。以下にいくつか代表的な例をご紹介します。それぞれの例に示す図で使用している製品はあくまで一例であり、ご紹介するシステム例で利用できる製品とその時に設定すべきプリセットを併せてリストアップしていますのでそちらをご確認ください。

システムA – 基本的なモノラルセッティング例

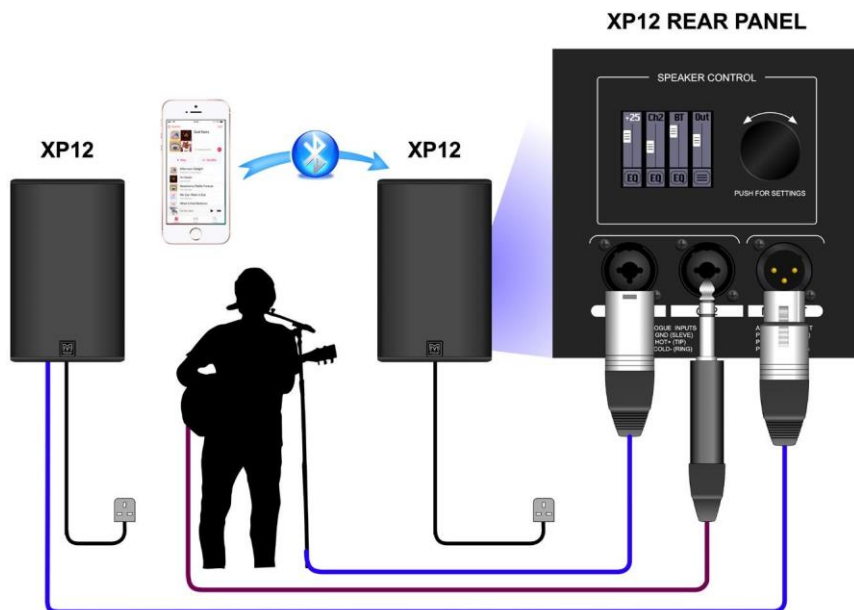


システムAで利用できる製品は以下になります。

- XP12
- XP15

このシンプルなシステムでは、マイクと楽器をBlacklineX Poweredの2つの入力端子に、それぞれXLRバランス端子と1/4\"アンバランス端子で入力します。レベルとEQは各入力に対し個別に操作できるので、楽器とマイクのレベルやEQをそれぞれ最適な値へ調整します。この時、スピーカーのプリセットは**FULL RANGE**を選択してください。

システムB - キャビネット2個を使用したステレオセッティング例

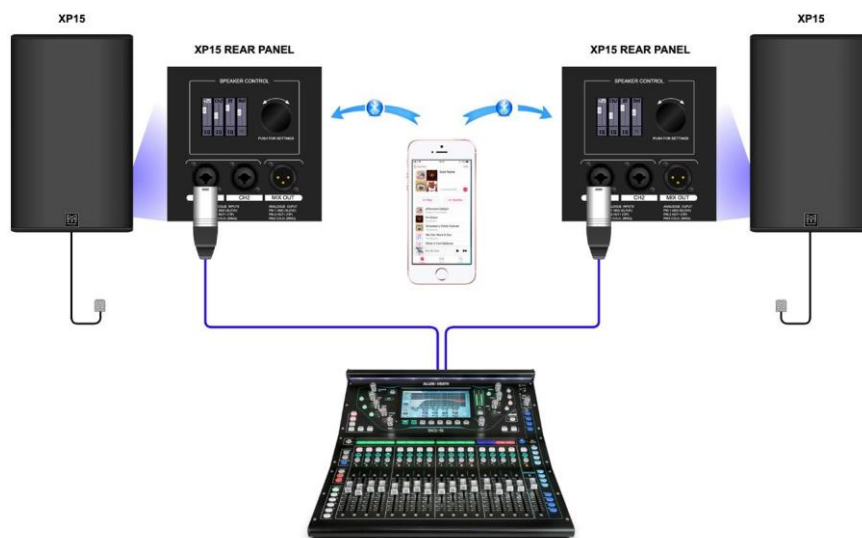


システムBで利用できる製品は以下になります

- XP12
- XP15

このシステム例では、システムAでご紹介したものに2個目のスピーカーを追加して実現できるステレオシステムです。1台目のスピーカーのミックスアウト端子と2台目のスピーカーのインプット端子をXLRケーブルで接続することでマイクと楽器の信号を共有できます。加えて、スマートフォンのようなBluetoothデバイスを1台目のスピーカーにペアリングし、リンク機能を使用して2台のスピーカーをリンクすることでステレオBGMを流しながらのパフォーマンスも可能になります。この時使用するプリセットはFULL RANGEを使用してください。

システムC – 外部ソースからのステレオ再生セッティング例



システムCで利用できる製品は以下になります。

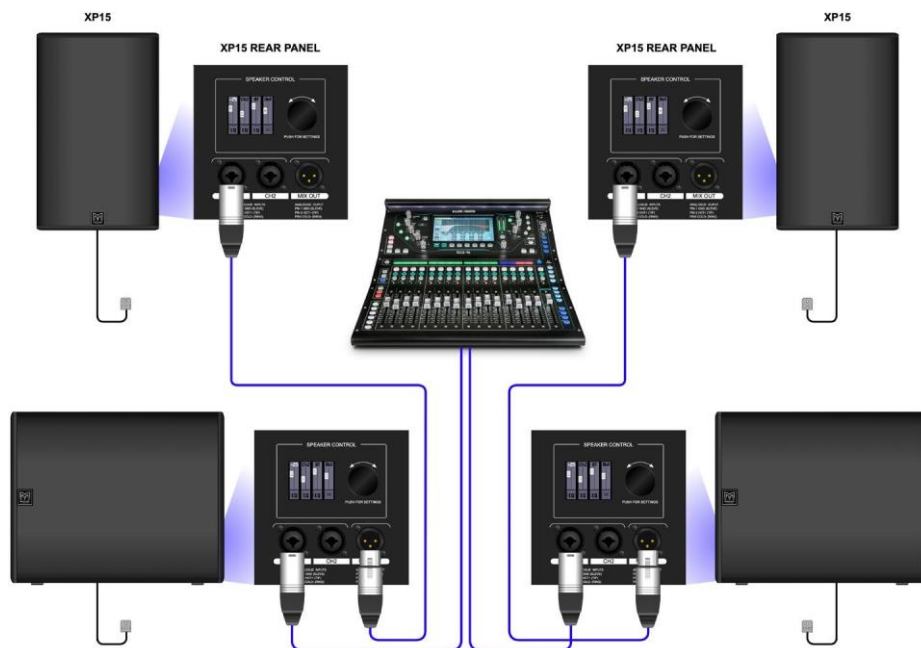
- XP12
- XP15

このシステムは外部のミキサーなどからステレオソースを受けて拡声するセッティング例をご紹介します。ミキシングコンソールからLRのステレオソースをXLRケーブル経由で各スピーカーのインプット端子で受けます。

加えてスマートフォンのようなBluetoothデバイスを一方のスピーカーをペアリングし、もう一方のスピーカーとリンク機能を利用してリンクすることで簡易的なBGMなどを直接スピーカーへ送り転換の際のBGMを再生する際になどに活用できます。この時使用するプリセットはFULL RANGE

を使用してください。

システムD – サブウーファーを使用したステレオセッティング例



システムDで利用できる製品は以下になります

- XP12 + XP118
- XP15 + XP118

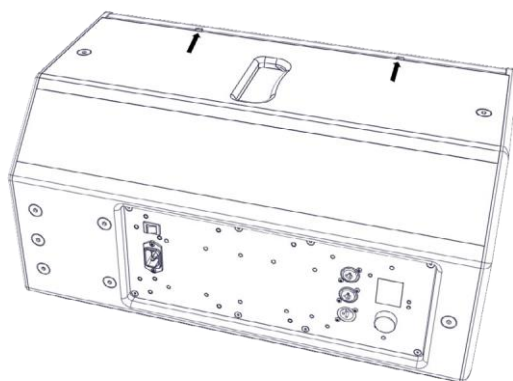
このシステムはシステムCでご紹介した例に2台のXP118サブウーファーを加えた例です。外部ミキサーからステレオ出力された2本のXLRケーブルをそれぞれXP118のインプット端子に接続します。次にXP118のミックスアウト端子とXP12もしくはXP15のインプット端子を短いXLRケーブルを使用して接続します。加えて、一方のXP118をBluetoothデバイスとペアリングし、もう一方のXP118をリンク機能でリンクすることで転換の際の簡易的なBGMなどを再生することができます。この時使用するプリセットとしては、XP12(もしくはXP15)はWITH SUB、XP118と一緒にXP12を使用している場合はWITH XP12を、XP15の場合はWITH XP15を選択してください。

グリルの取り外しとホーンの回転

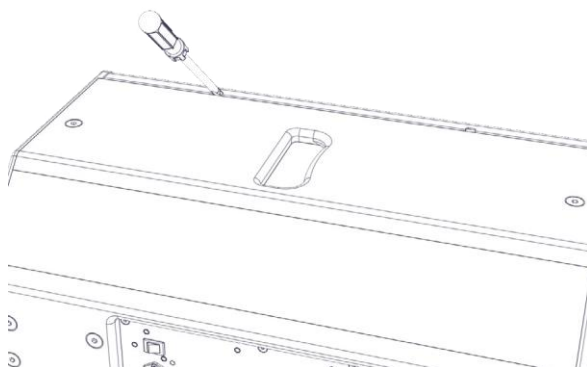
BlacklineX Powered製品のうちXP12およびXP15はモニターウェッジのように横向きに使用したり、設備設置として横向きに吊って使用されることも想定して設計されています。その際は製品のパフォーマンスを十分に引き出すためにホーンの向きを90°回転させる必要があります。そのためその作業を簡単に行えるよう、スピーカーのグリルはその剛性を利用してキャビネットを挟み込んで固定する方式となっています。ホーンもポジティブドライバーを使用して簡単に取り外せるようになっており、またグリルについているロゴバッジの向きの回転も容易です。以下にそれらの作業手順をご説明します。

グリルの取り外し

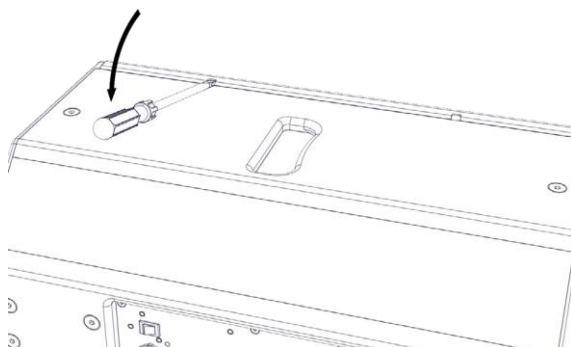
BlacklineX Poweredのグリルはホーンの回転を行うためにネジを使用しておらず、簡単に取り外せるようになっています。グリルには側面に2つもしくは3つの取り外し用の穴が設けられており、マイナスドライバーなどの工具をその穴へ差し込み、てこの要領でグリルを取り外します。



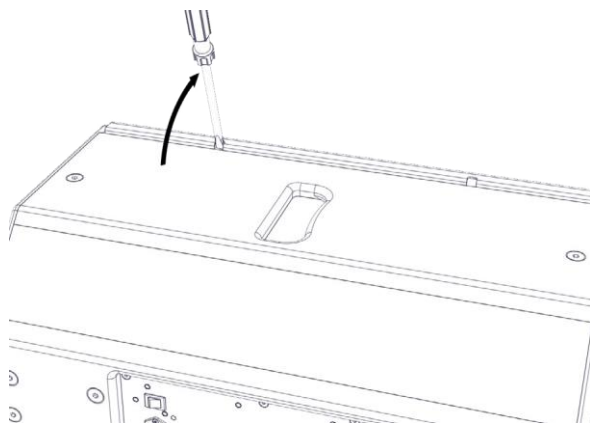
取り外し用の穴にマイナスドライバーを差し込みます、側面に穴が3つある場合は真ん中以外の穴に差し込みます。



差し込んだドライバーをやさしくキャビネット側へ倒します。グリルが浮き上がり、キャビネットの溝からグリルのツメが外れたことを確認します。※新品の場合はグリルの剛性が高く、取り外しに力を要する場合があります。



工具グリル側へ起こすことでグリルが外れます。外れない場合は、グリルの反対の差し込み穴に対しても同様の手順を行います。

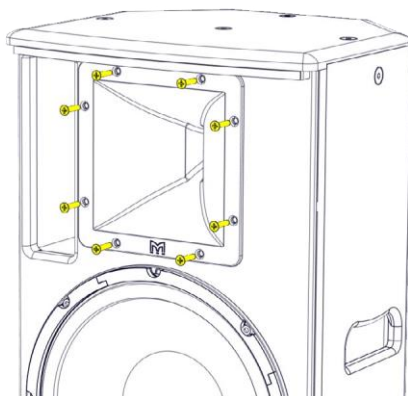


グリルをもとにもどすには、片側をキャビネットの溝にはめ込み、グリルの中心部分を軽く押しながらもう片側のグリル側面をキャビネットの溝にはめ込みます。

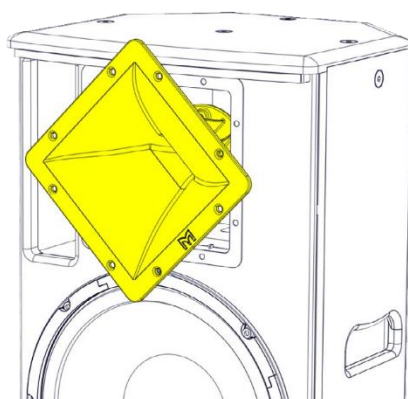
高域ドライバー用ホーンの回転

フルレンジ用スピーカー(XP12やXP15)には、高域コンプレッションドライバーが取り付けいた専用ホーンが8つの2番ポジネジによって固定されています。グリルを取り外すことによってこのホーンはすぐに確認することができ、全てのモデルにおいて基本的なホーンの形状は変わらず、大きなスピーカーになるとより大きなホーンが取り付けられています。

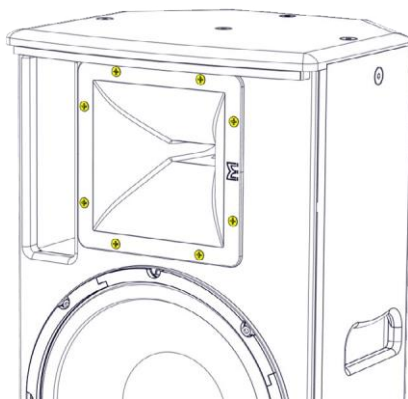
スピーカーを横向きで使用する場合は、ホーンの8つのネジを取り外してください。



ホーンを持ち上げ、ホーンにあるマーチンロゴが横向きに使用する際に正方向となる向きへ90°回転させます。その状態で取り外したネジを取り付けなおします。

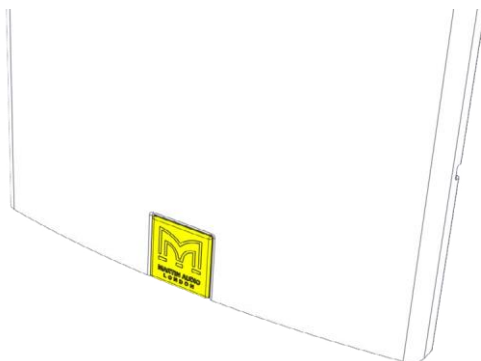


キャビネットは木製なので必要以上に締めすぎる必要はありません。またネジ山をなめないよう注意して下さい。

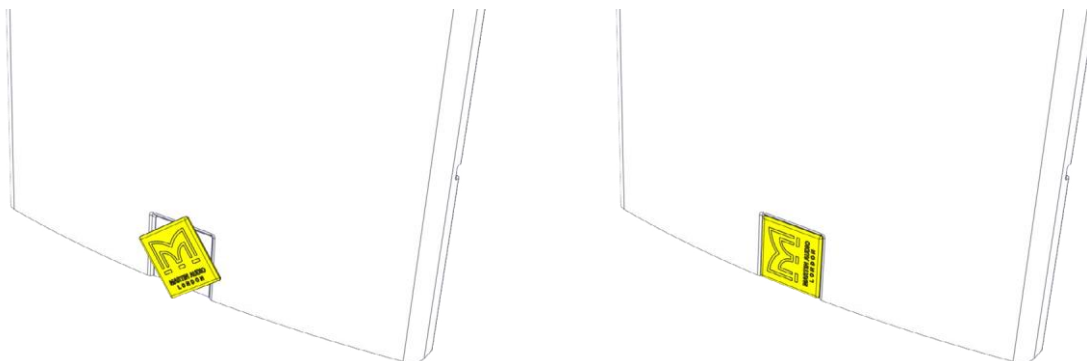


バッジの回転

グリルのロゴバッジはグリルにバネを介して取り付けられていますので簡単に回転させることができます。



小さなマイナスドライバーなどバッジとグリルの間に差し込めるものを使用し、ロゴバッジをグリルの溝から浮き上がらせ、向きを90° 回転させます。

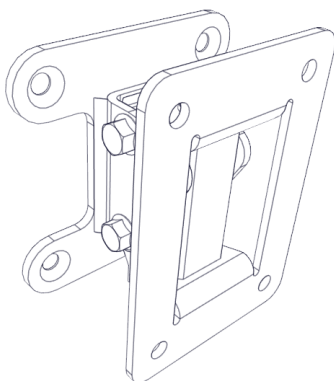


バッジには傷つきを防止するための薄い保護シールが貼られています。設備使用では定位置に設置されるまで、ツアーリング使用では使用し始めるまで保護シールをはがさないことをお勧めします。

ウォールマウント

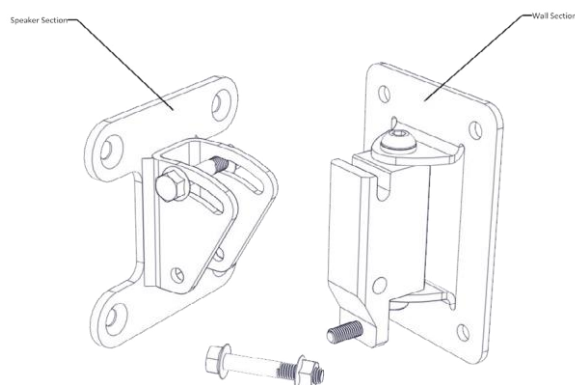
ウォールブラケット

XP12は専用のウォールブラケットを使用して壁に縦付けすることができます。XP12 で使用できるウォールブラケットはWB10/12Bです。

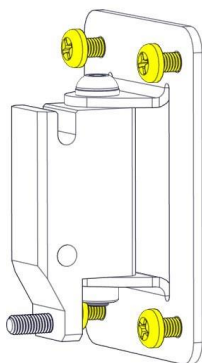


ウォールマウントでの設置はスピーカー側の金具取付と壁側の金具取付の2段階の手順を踏んで設置します。

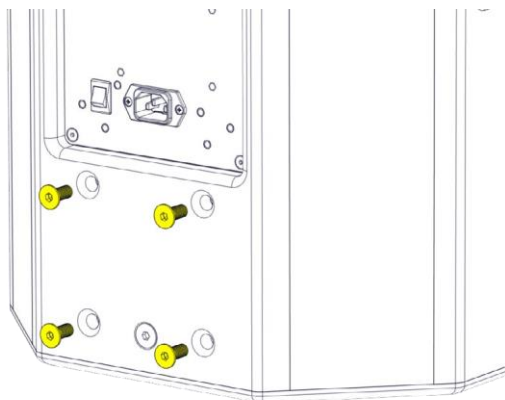
まず、スピーカー側に取り付ける下図左側の金具に平行なボルトが二つ付いているうちの、下側のボルトを外します。上側のボルトは外す必要ありません。するとブラケットの金具を二つに分けることができます。



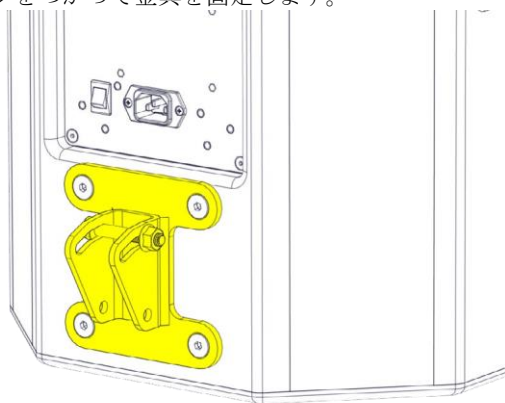
続いて、壁側に取り付ける側の金具を壁面に取り付けます。壁面の取り付け用に4つのネジ穴が設けられていますので、先ほど分割した金具を取り付けるための溝がある面を上にした状態で壁に取り付けます。



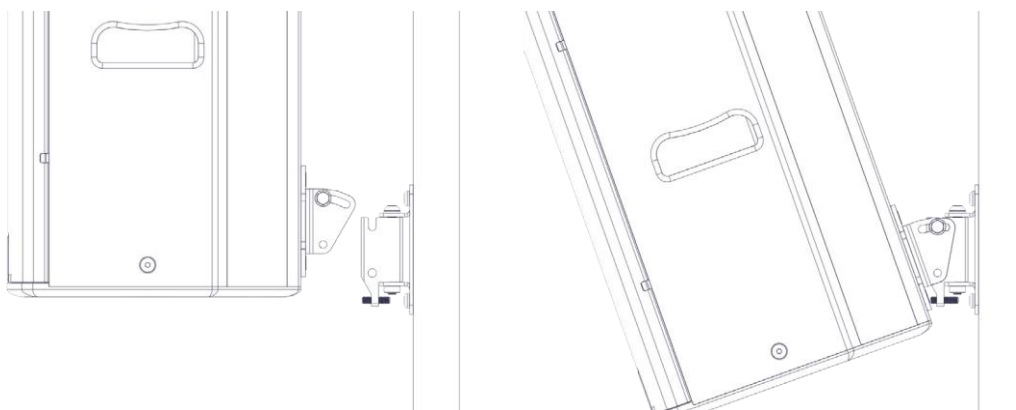
続いてスピーカー側に金具を取り付けます。こちら側も4つのネジで金具を取り付けられるようになっており、XP12の背面下部にある4つのネジを外します。



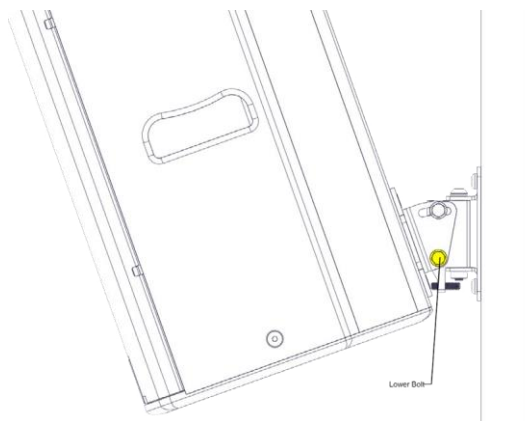
金具をスピーカーにとりつけ、取り外したネジをつかって金具を固定します。



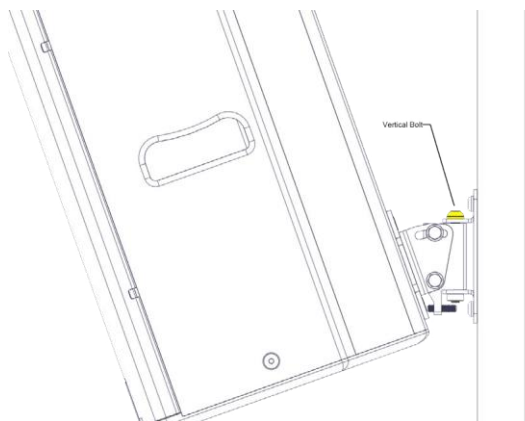
これでスピーカーを壁に取り付ける準備ができました。壁面取り付け側の金具の溝部分に、スピーカー側金具のボルトをひっかけます。



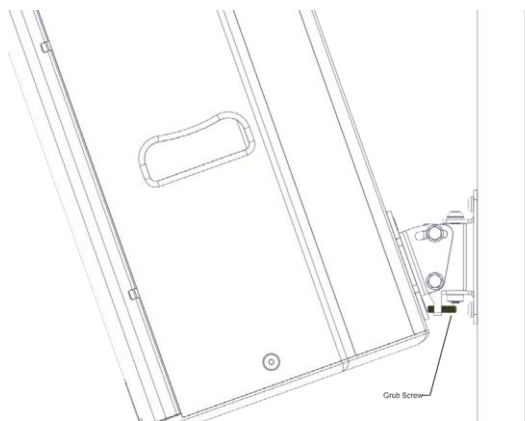
一番はじめに取り外したボルトを使ってスピーカー側金具と壁取付側の金具を一体化させます。



最後にスピーカーの細かい向き調整を行います。水平方向の振り（パン）は下図の縦方向のネジを軽く緩めることで調整できます。お好みの振りに調整できたら、緩めたネジをM6の六角レンチを使って締めなおし、振りを固定します。



縦方向の振り（チルト）を調整するためには、下図に示すネジを使用します。より上向きにしたい場合はネジをスピーカー側に長くとり、逆により下向きにしたい場合はネジを壁側に長く取るように調整します。

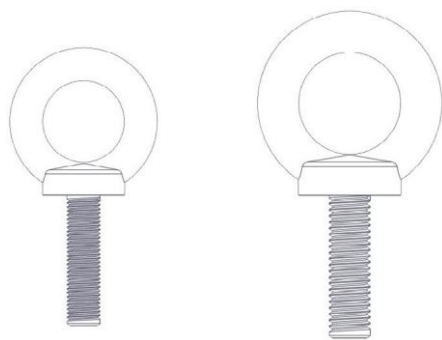


お好みのチルトに調整できたら2本のボルトをしっかりと締め込みます。エクステンダーバーを使用したソケットセットを使用するとボルトの締め込みが容易です。

アイボルトマウント

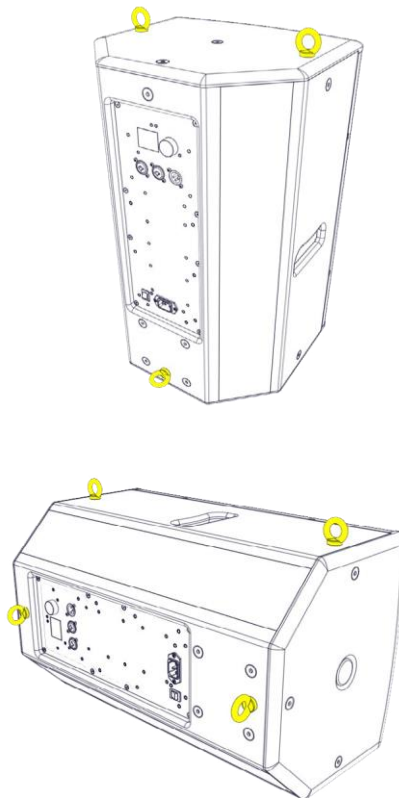
アイボルト

全てのBlacklineX Powered製品はアイボルト金具を取り付けるネジ穴をキャビネットに有しています。XP12とXP15はM8のネジ穴が、XP118にはM10のネジ穴となっています。ここに下図のようなアイボルト金具をとりつけ、頑丈な鉄製ワイヤーを用いて吊ることができます。マーチンオーディオではHTK00003 (M8)とHTK00004 (M10)がそのためのアイボルトに相当します。代替のアイボルトを使用する際は必ず下図のような、アイボルトとキャビネットの接地面が多いショルダーキャスト型を使用し、DIYショップで販売されているような市販品のは決して使用しないでください。



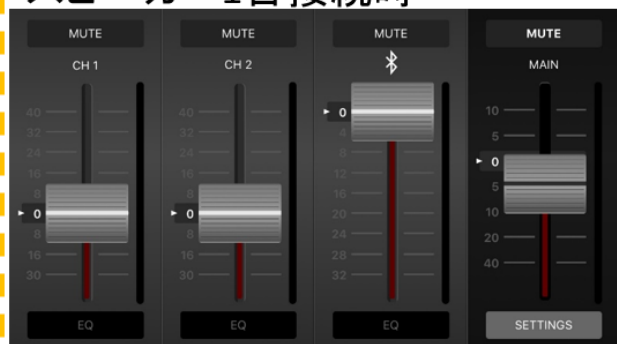
アイボルトによる取り付けの場合、BlacklineX Poweredスピーカーは縦向きと横向きともに取り付けが可能です。横向きに付ける場合はホーンの回転をする必要があることにご注意ください。詳しくはグリルの取り付けとホーンの回転の章をご確認ください。

アイボルトでのスピーカーを取り付ける場合、最低4本のアイボルトを使用して吊ってください。ほとんどの場合、下図のように上部の左右2点でスピーカーが回転しないようにし、背面に取り付けた3本目のアイボルトでスピーカーのチルトを調整することで設置できます。4本目のアイボルトは脱落防止のため他のアイボルトとは別の梁やそれに準ずるものへ取り付けください。

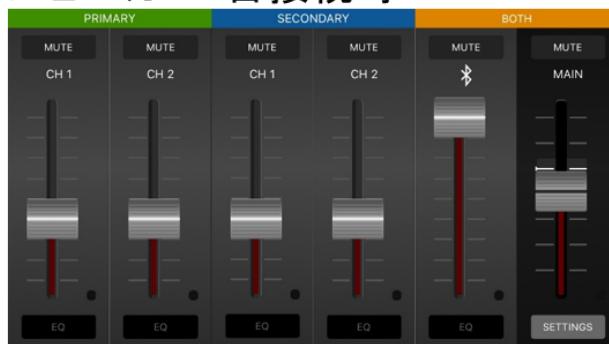


フェーダー画面

スピーカー1台接続時



スピーカー2台接続時

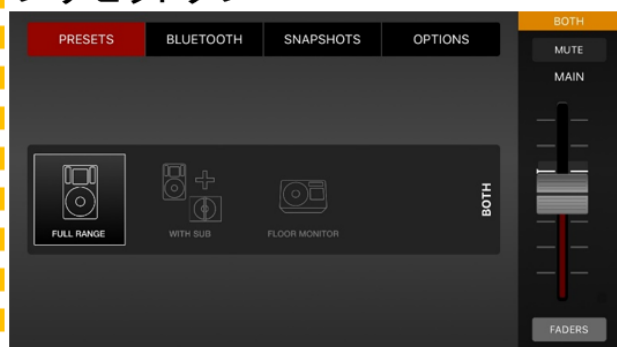


SETTINGS

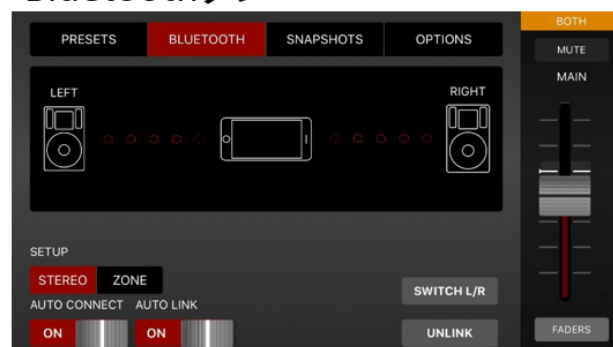
FADERS

セッティング画面

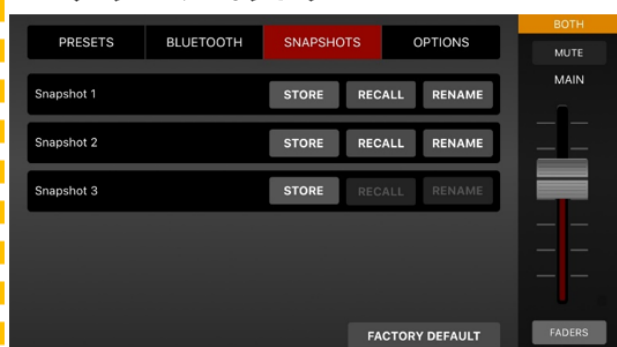
プリセットタブ



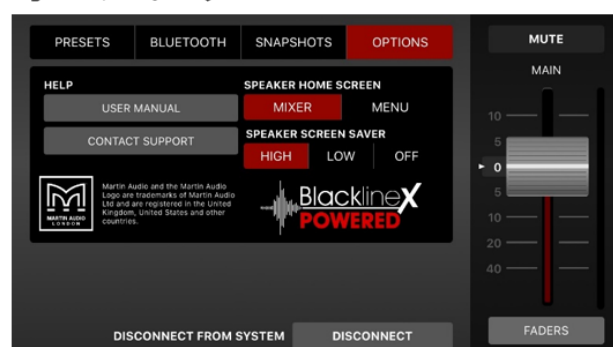
Bluetoothタブ



スナップショットタブ



オプションタブ



フェーダー画面

各入力チャンネル(Ch1,Ch2,Bluetooth)と出力チャンネルにおける、ミュート/アンミュートおよびフェーダーの値を操作できます。

スピーカー2台接続時は、PRIMARYおよびSECONDARYのフェーダーがそれぞれ表示されます。

このとき、セッティング画面＞BluetoothタブのSETUP欄にてSTEREOを設定している場合のみ、2台のフェーダーはChごとにリンクされます。つまりPRIMARYのCh1のフェーダーを操作すると、SECONDARYのCh1のフェーダーもその値に追従します。

セッティング画面

・プリセットタブ

スピーカーリアパネルのLCD上から操作できる、メニュースクリーン＞プリセットの項目に対応します。

セッティング画面＞BluetoothタブのSETUP欄をZone設定にしている場合のみ、プリセットを個別に設定できます。

・Bluetoothタブ

スピーカーリアパネルのLCD上から操作できる、以下の項目に対応します。

-メニュースクリーン＞Bluetoothの項目における機能

-メニュースクリーン＞設定の項目のうち、「オート接続」および「オートリンクBluetooth」機能

・スナップショットタブ

XP Connectアプリ特有の機能です。IOSアプリ内に、最大3つまでのスナップショットを保存し、すぐに呼び出すことができます。

保存対象となるパラメータは以下になります。

-フェーダー画面のミュート/アンミュートおよび各フェーダー値

-セッティング画面のプリセットタブにおけるプリセット設定

注意：XP ConnectアプリをIOS上からアンインストールするとスナップショットデータも消失しますのでご注意ください。

STOREボタン

現在のスピーカーの各パラメータ状態を保存します。

RECALLボタン

STOREで保存したパラメータ状態を呼び出します。

RENAMEボタン

スナップショットデータの名前を編集できます。

・オプションタブ

スピーカーリアパネルのLCD上から操作できる、メニュースクリーン＞設定の項目のうち、「スクリーンセーバー」および「ホームスクリーン」機能に対応します。